

## ボクサー Boxer

F C I スタンダード No. 144

### ■原産国

ドイツ

### ■用途

コンパニオン、ガード・ドッグ及びワーキング・ドッグ

### ■F C I 分類

グループ 2                      ピンシャー&シュナウザー、モロシアン犬種、スイス・マウンテン・ドッグ&スイス・キャトル・ドッグ、関連犬種  
セクション 2. 1      モロシアン犬種、マスティフ・タイプ

### ■沿革

ブラバント地方のブレンバイサーと呼ばれている小型の犬がボクサーの直接の祖先と考えられている。当時ブレンバイサーの繁殖は主に猟師によって行われ、狩猟の際に使用された。その作業とは、ハウンドによって追いつめられた獲物を捕らえ、猟師が到着し、止めを刺すまでそれをしっかりと獲保することであった。そのためにはしっかりと啣えて保持することが必要であるため、できるだけ大きな口としっかりした幅広い歯列を持っていなければならなかった。これらの特徴を持つブレンバイサーがこの作業に最も適しているとして繁殖に使用された。以前は、作業能力及び使用目的に適しているかどうかという点のみが考慮されていた。選択繁殖が行われ、幅広いマズルと上向きの鼻を有する犬が作出された。

### ■一般外貌

中型で、滑らかな被毛を持ち、コンパクトで、スクエアな体躯構成、そして丈夫な骨を持つ頑健な犬である。筋肉は引き締まっており、頑丈に発達した外貌をしている。

歩様は快活で、力強く、高潔さが感じられる。ぎこちなさや重々しさ、また軽い印象やサブスタンスに欠けているようには見えてはならない。

### ■重要な比率

- a) 体長／体高：スクエアな体躯構成である。つまり、水平な背線のラインと、それに対し直角に交わる肩端を通過する垂線と、坐骨端を通過する垂線はスクエアを形成する。
- b) 胸深／体高：胸は肘まで達する。胸深は体高の半分である。
- c) 鼻梁の長さ／スカル長さ：鼻梁の長さ／スカル長さの比率は 1 : 2 (鼻先から目頭までの長さ、目頭からオクシパットまでの長さをそれぞれ計測する)。

### ■習性／性格

勇敢で、自信に満ち、穏やかで、安定している。性格は最も重要であり、十分に注意を払う必要がある。飼い主並びに家族に対する献身及び忠誠心、防衛に対する用心深さと勇敢さはよく知られている。家族には無邪気だが、見知らぬ者に対しては疑い深い。遊ぶ時は楽しく、親しみやすいが、真剣な場面では恐れをなさない。従順な性格から訓練は容易で、決断力があり、勇敢で、生まれながらにして鋭敏で、嗅覚も鋭い。要求が少なく、きれい好きで、ガード・ドッグ、コンパニオン及びワーキング・ドッグであるのと同じ位、愉快で、愛される家族の一員である。年をと

っても狡猾さや、人を欺くようなところはなく、信頼がおける。

## ■頭部(ヘッド)

頭部がボクサーの独特な外観を表している。ボディと良く釣り合いが取れていなければならない。軽すぎたり重すぎたりしてはならない。マズルは可能な限り幅広く、力強くなくてはならない。頭部の調和はマズルとスカルのバランスによる。

頭部を前望、上望、側望、どの角度から見ても、マズルは常にスカルと正しく釣り合いが取れていなければならない。つまり、決して小さすぎてもならない。すっきりとしており、皺は見られない。しかし、警戒時は、頭蓋部に自然な皺が見られる。鬃は常にマズルの付け根から両側へ下向きに刻まれている。ダーク・マスクはマズルに限定され、際立って頭部の色と対照的であるため、顔は陰鬱には見えない。

### □頭蓋部 (クラニアル・リージョン)

#### スカル

頭蓋部はできるだけほっそりとし、角張っていなければならない。僅かにアーチし、丸々としすぎていたり、短すぎたり平らでもない。広すぎることもなく、オクシパットは突出しすぎない。額溝は極僅かに認められ、特に目の間の溝は深すぎてもならない。

#### ストップ

前頭部は鼻梁と共に明瞭なストップを形成している。鼻梁はブルドッグのようにしゃくれているたり、ダウン・フェイスだったりしない。

### □顔部(フェイシャル・リージョン)

#### 鼻(ノーズ)

鼻は幅広く、ブラックで、ごく僅かに上を向き、鼻孔は幅広である。鼻先は付け根よりも僅かに高く付く。

#### マズル

マズルは3次元にわたって力強く発達しており、尖っていたり、細かったり、短かったり又は浅くはない。外貌は次の部分の影響を受ける：

a) 顎の形。b) 犬歯の位置。c) 唇の形。犬歯は十分な長さを持ち、それぞれできる限り離れて付いていることでマズルの前面は幅広く、ほぼスクエアでトップラインと鈍角を形成している。

正面から見て、上唇の端は下唇の端に置かれている。下顎の一部は僅かに上方に湾曲し、下唇と共に頤(おとがい)と呼ばれる。これは前望した時に上唇を超えて著しく突出してはならず、また上唇に隠れているべきでもなく、前望しても側望しても十分に輪郭が明確でなければならない。

下顎の犬歯及び切歯は口を閉じている時に見えてはならず、舌も同様である。上唇の正中溝(鼻の下にあるくぼみ)は明確である。

#### 唇(リップス)

唇はマズルの形を完全なものにしている。上唇は厚く肉付きがよく、アンダーショットの下顎によって作られたスペースを覆っており、下顎の犬歯によって支えられている。

#### 顎/歯(ジョーズ/ティース)

下顎は上顎より前に出ており、僅かに上向きにカーブしている。アンダーショットである。

上顎はスカルと接合している部分は幅広で、前に向かって極僅かに先細っている。歯は丈夫で、健康である。切歯はできるだけ規則正しく、直線上に生えている。

両犬歯は離れて生え、適度な大きさである。

#### 頬 (チークス)

頬は著しく突き出ることなく、頑丈な顎とバランスが取れて発達している。頬は緩やかなカーブを描き溶け込む。

#### ■目 (アイズ)

ダークな目は小さすぎず、突出しておらず、また窪んで付いてもいない。その表情は活力があり、利口そうであり、脅すようであったり険しかったりしない。目縁はダークでなくてはならない。

#### ■耳 (イヤーズ)

自然な耳は適度な大きさで、スカルの高点に離れて付いている。休息時には頬に接して垂れ下がり、警戒時には特にはっきりと前方へ折れ曲がる。

#### ■頸 (ネック)

トップラインは優雅なアーチを描いているネックラインからキ甲へと流れていく。十分な長さ、丸みがあり、頑丈で、筋肉質である。

#### ■ボディ

がっしりとした真っ直ぐな脚の上に、スクエアなボディが乗っている。

#### キ 甲 (ウィザーズ)

はっきりとしている。

#### 背 (バック)

背及び腰は短く、引き締まっており、真っ直ぐで、幅広く、筋肉質である。

#### 尻 (クループ)

僅かに傾斜しており、幅広で、極僅かにアーチを描いている。寛骨は長く、幅広で、特に牝において顕著である。

#### 胸 (チェスト)

深く、肘にまで達する。胸の深さはキ甲の高さの半分である。前胸は十分に発達している。肋骨は良く張っているが、樽胴ではなく、後方まで十分に伸びている。

#### アンダーライン

後部へ優雅なカーブを描いている。短く、しっかりとしたひばらは僅かに巻き上がっている。

#### ■尾 (テイル)

尾付きは低いというよりはむしろ高めである。尾は標準的な長さで、自然のまま残す。

#### ■四 肢 (リムズ)

##### □前 軀 (フォアクォーターズ)

##### 一般外貌 (ジェネラル・アピアランス)

前望すると前脚は平行に立っていなければならない、頑丈な骨を持つ。

##### 肩 (ショルダーズ)

長く、傾斜しており、ボディにしっかりと付いている。過剰に筋肉質ではない。

##### 上 腕 (アッパー・アーム)

長く、肩甲骨に直角に付く。

##### 肘 (エルボーズ)

胸の側面に密着しすぎてもおらず、外向もしていない。

##### 前 腕 (フォアアーム)

垂直で、長く、引き締まっており、筋肉質である。

手 根 (カーパス) (リスト)

頑丈で、明確であるが、過度ではない。

中 手 (メタカーパス) (パスターン)

短く、地面に対しほぼ垂直である。

前 足 (フロント・フィート)

小さく、丸く、緊握しており、十分なクッションと堅いパッドを持つ。

□ 後 軀 (ハインドクォーターズ)

一般外貌 (ジェネラル・アピアランス)

非常に筋肉質で、筋肉は非常に堅固で皮膚の下に見ることができる。

後 脚 (ハインドレッグス)

後望すると真っ直ぐである。

大 腿 (サイ)

長く、幅広である。寛骨と大腿骨の角度、膝関節の角度は開いているが、その角度は最小限である。

膝 (ニー) (スタイフル)

立姿時には十分前方に出ているため、尻の先端から地面までのラインは垂直である。

下 腿 (ローワー・サイ)

非常に筋肉質である。

飛 節 (ホック)

頑丈で、十分顕著だが、過度ではない。角度は約 140 度である。

中 足 (メタターサス) (リア・パスターン)

短く、地面に対し僅かに傾斜し、95 度から 100 度の角度を成す。

後 足 (ハインド・フィート)

前足よりも僅かに長く、緊握している。十分なクッションと堅いパッドを持つ。

■ 歩 様 (ゲイト/ムーブメント)

活発で、力強く、気高さを持つ。

■ 皮 膚 (スキン)

ぴんと張っており、弾力があり、皺はない。

■ 被 毛 (コート)

毛 (ヘアー)

短く、堅く、光沢があり体に密着している。

毛 色 (カラー)

フォーンまたはブリンドル。フォーンは明るいフォーンから濃いディー・レッドまで様々な色調があるが、最も魅力的な色調はその中間 (レッド・フォーン) である。ブラック・マスク。ブリンドル・バラエティー：様々なフォーンの色調の地色に、ダークまたはブラックのストライプが肋骨と平行に入っている。地の色とストライプははっきりと対照を成していなくてはならない。白の班を全く否定する必要はなく、かなり魅力的である。

■ サイズ

体 高

牡：57 cm～63 cm 牝：53 cm～59 cm

体 重

牡：体高が約 60 cm の場合は 30 kg 超

牝：体高が約 56 cm の場合は約 25 kg

### ■欠 点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度及び犬の健康並びに福祉への影響に比例するものとする。

- ・習性／性格：活力がないもの。
- ・頭部：気高さ及び特徴的な表情を欠くもの、陰鬱な表情、ピンシャーまたはブルドッグ・タイプの頭部。よだれが垂れるもの、歯や舌が見えているもの、マズルが尖りすぎているもの、または細いもの。鼻梁が下を向いているもの。レザー・ノーズ、またはウェザー・ノーズ、鼻の色が薄いもの。いわゆる「ホーク・アイ」と呼ばれる目、瞬膜の色素が欠如しているもの。  
断耳されていない耳：ひらひらとした耳、半立ち耳、または直立耳、ローズ・イヤヤー。  
ライ・ジョー、斜めに生えた歯、歯の生えている位置が正しくないもの、未発達歯の歯、病気に起因する不健全な歯。
- ・頸：短く、太く、スローティネスのもの。
- ・ボディ：フロントの幅が広すぎるもの、または地低いもの。弛んだボディ、ローチ・バック、またはスウェイ・バック。引き締まっており、長く、幅が狭く、弛んだ腰、カプリングが緩いボディ。  
アーチした腰、斜尻。寛骨の幅が狭いもの、ひばらが窪んでいるもの、垂れ下がった腹。
- ・尾：尾付きが低いもの、キンク・テイル。
- ・前軀：フレンチ・フロント、緩い肩、緩い肘、弱いパスターン、ヘアー・フット、偏平足、スプレイ・フット。
- ・後軀：弱い筋肉。角度がありすぎるもの、なさすぎるもの。サーベル・レッグ。バレル・ホック、カウ・ホック、ナロー・ホック、デュークロー、ヘアー・フット、偏平足、スプレイ・フット。
- ・歩様：よろよろとした後軀の動き、リーチが不十分なもの、ペーシング歩様、竹馬歩様。
- ・毛色：マズルを超えて広がったマスク。ストライプ（ブリンドル）が近接しすぎているものや、まばらすぎるもの。  
すすけたような地色。他の色が混じり合っているもの。頭部全体がホワイトであったり、頭部の片側がホワイトであるような魅力的でないホワイト・マーキング。他の色及びホワイト・マーキングが地色の3分の1を超えるもの。

### ■失 格

- ・攻撃的または過度のシャイ。
- ・肉体的または行動的に明らかに異常なもの。
- ・先天性短尾（ボブテイル）

注：・牡犬は明らかに正常な2つの睾丸が陰嚢内に完全に下降していること。

- ・機能的かつ臨床的に健全であり、その犬種のタイプを有している犬のみが繁殖に使用されるべきである。